



くまもと経済・(株)地域経済センター

〒860-8552 熊本市中央区紺屋町1丁目2番2号  
発行人 株式会社 地域経済センター 松岡 泰輔  
TEL (096)351-3333

購読料 1ヵ年20万円

# 週刊政治レポート

1503 (通巻1803) 号 令和7年3月5日 (水) 発行

[無断で転載及び複写 (コピー) を固くお断りします]

# 「皿を割れ」の精神で市政に臨む

末松直洋宇城市長 2月27日に就任・・・2

◎在職25年、「変わらぬ情熱と行動力」・・・3

鎌田聡県議 後援会総会に150人

◎お膝元・尾ノ上で県政報告会・・・5

堤泰之県議 地域コミセンに30人

◎「熊本の水」をテーマに市政報告会・・・7

筑紫るみ子熊本市議 古川市議など30人

◎地下水保全条例の改正を提言・・・8

共産党県委員会 P F A Sを届け出対象に

◎議長に有働氏、副議長に小川氏・・・9

山鹿市議会 改選後初の臨時会

◎議会への多様な人材参画など決議・・・9

県町村議会議長会 総会に100人

ほか

情熱と行動力は今も強く持ち続けている」と変わらぬ力強さをアピール。T S M C進出について触れ、「13兆円以上というかなりの経済効果が見込まれているが、そこに1兆円以上の補助金が使われる。地下水や渋滞、農地など、さまざまな課題が生まれている。そして、昨年の中小企業の倒産件数は過去最大の80件。T S M Cが来ているのにこのような状態ということは、もしかしたら一部の人間が得をするような施策になっているのではないか。働く人たちを守り、中小企業を守り、環境を守り、農地を守り、渋滞対策も進める。県政をしっかりと注視したい」と語った。

また、夏の参院選についても触れ、比例区では改選を迎える吉川参院議員の支援を求めた。県選挙区については「岩盤自民党の保守層を打ち破る候補者の擁立に向けて努力をしている。なかなか難しい状況でもあるが、なんとしてもそういった候補者を擁立したい。政治もマラソンも力を振り絞って、まだまだ頑張ってきたい」と訴えた。

石橋通宏参院議員の祝辞が代読された後、力合西校区自治協議会の洲崎悠一会長による発声で乾杯した。



▲約30人が出席した。囲みは堤県議

## お藤元・尾ノ上で県政報告会 堤泰之県議 地域コミセンに30人

自民党の堤泰之県議（2期・熊本市1区）は2月28日、熊本市東区の尾ノ上地域コミュニティセンターで県政報告会を開き、地元の自治会関係者など約30人が集まった。

後援会の榎主税会長が開会あいさつに立ち、「私は熊本学園大学付属中学高校同窓会の『紫紺会』で会長を務めていた時に、彼に事務局長を務めてもらった。本当によく仕事をしてくれた」と堤県議との出会いを語った上で、「堤さんはこの数年でものすごい勢いで成長している。必ずやこの熊本県、そして地元・尾ノ上のためになる人物だと強く期待している」

と語った。

地元の自治会長らによるあいさつと堤県議へのエールがあった後、県政報告に立った堤県議は「県議に就任してこの2年半、必死で勉強してきた。みなさんには、私がまだまだ分からない地域の課題や皆さまの不安、地域への思いを直接教えていただきたい。皆さまの声を国と県につないでいき、より良い熊本県、そして尾ノ上地域をつくってきたい。地域のために一生懸命働かせていただきたい」とあいさつした。

日常的な政治活動や県議としての公務、議会活動、能登半島でボランティア活動をしたことなどを報告。昨年4月から陸上自衛隊第8後方支援連隊の後援会長を務めていることを明かし、「あるご縁がありお受けすることになった。熊本県内には1万2千人を超える自衛隊員の方々がお住まいだ。精一杯お支えていきたい」と語った。

尾ノ上地域におけるイベントなど地域活動についても触れた上で、地域から熊工北門通り交差点におけるミラー整備について要望があったことを明かし、「熊本市の事業では

あるが、伝手を頼ってミラーを設置することができた。高校生の自転車接触事故などが起こりやすい地域だ。皆さまのご要望があれば、今後も精一杯対応していきたい」と報告した。

### 尾ノ上は地域活動が活発

自身が不動産事業を行っていることから「今は若い方が多くが40年、50年ローンを組んで家を建てる時代になっている」とした上で、「そのような中で、それでも尾ノ上地域に住みたいと思う方たちの傾向としては、周辺に公共施設があるというのが大きい。それと同時に地域の活動が非常に活発だと言われている」と解説。「どんどややお祭りなどが多くの地域でなかなか続けることができなくなっている中で、地道に守ってつないできたことがこの校区の評価につながっているのではないか。これからは若い力も取り込んでいきながら、その中心として尾ノ上を引っ張って行きたいという思いがある。是非とも、今後も叱咤激励をしていただきたい」と力強く語った。